

那須岳の火山活動解説資料（平成 30 年 11 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3-①、図 4-①）

湯本ツムジケ平監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約 5 km）及び日の出平北監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南西約 0.8 km）による観測では、茶臼岳の噴気はやや少ない状態で、噴気の高さは火口上概ね 200 m 以下で経過しています。

・地震や微動の発生状況（図 3-③、図 4-②、図 5）

那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図 4-③④⑤、図 6）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 那須岳 茶臼岳の状況（11 月 16 日、湯本ツムジケ平監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧できます。

次回の火山活動解説資料（平成 30 年 12 月分）は平成 31 年 1 月 11 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。

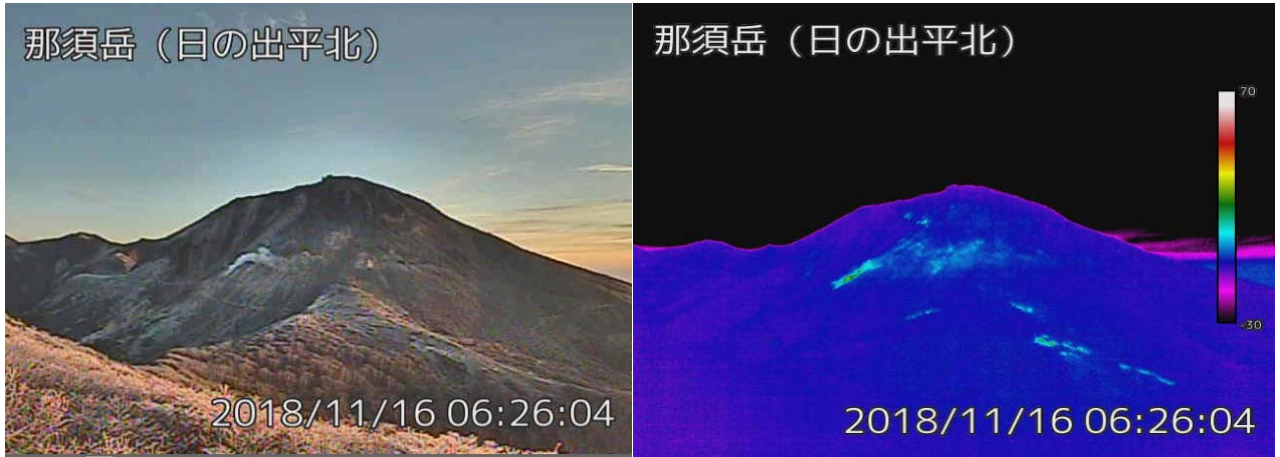


図2 那須岳 茶臼岳の西側斜面の可視画像と地表面温度分布²⁾（日の出平北監視カメラによる）
 ・噴気孔や地熱域に対応して高温部分が認められます。

2) 赤外熱映像装置により観測しています。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の温度よりも低く測定される場合があります。

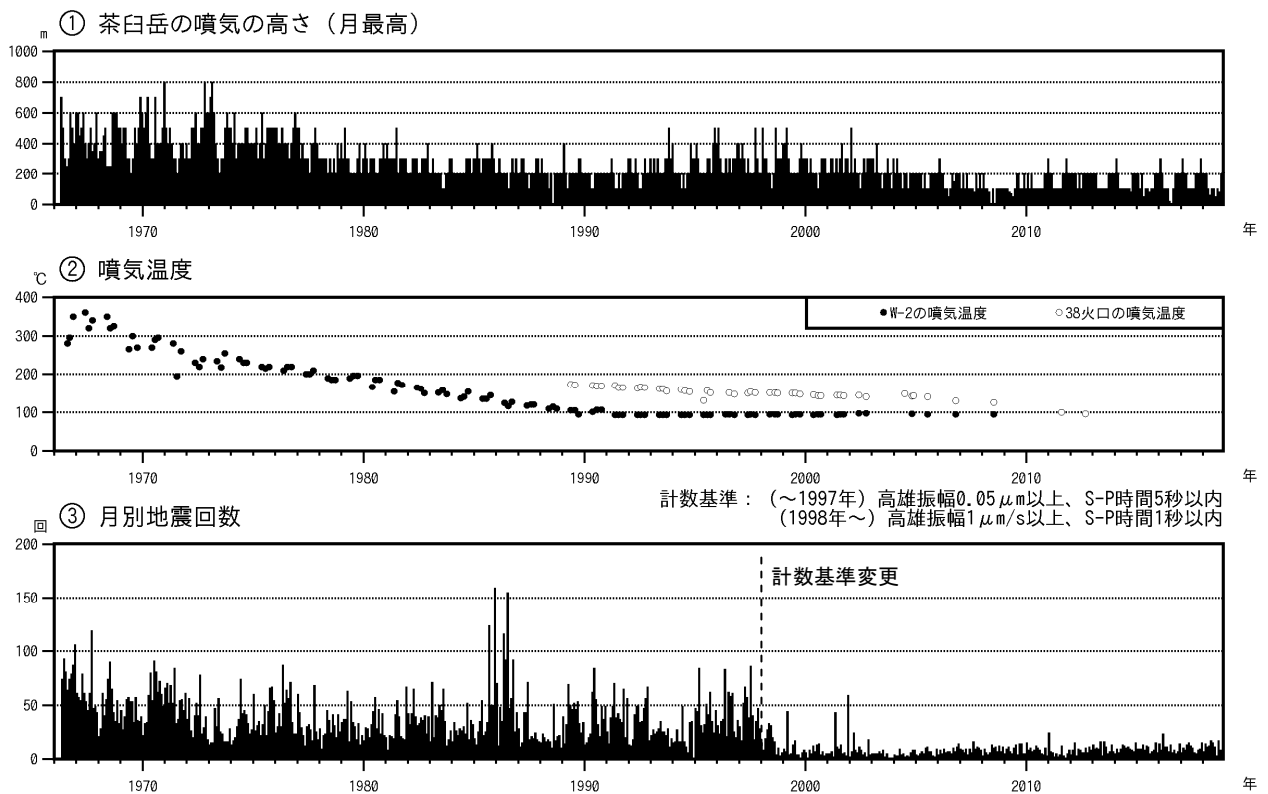


図3 那須岳 火山活動経過図（1966年1月～2018年11月）

- ① 定時観測（09時・15時）による月最大値
- ② 噴気温度、W-2及び38火口はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測定点
- ③ 月別地震回数（～1997年：那須岳周辺の地震を含む、1998年～：那須岳山体付近の地震のみ計数）

・噴気活動、地震活動は低調に経過しています。

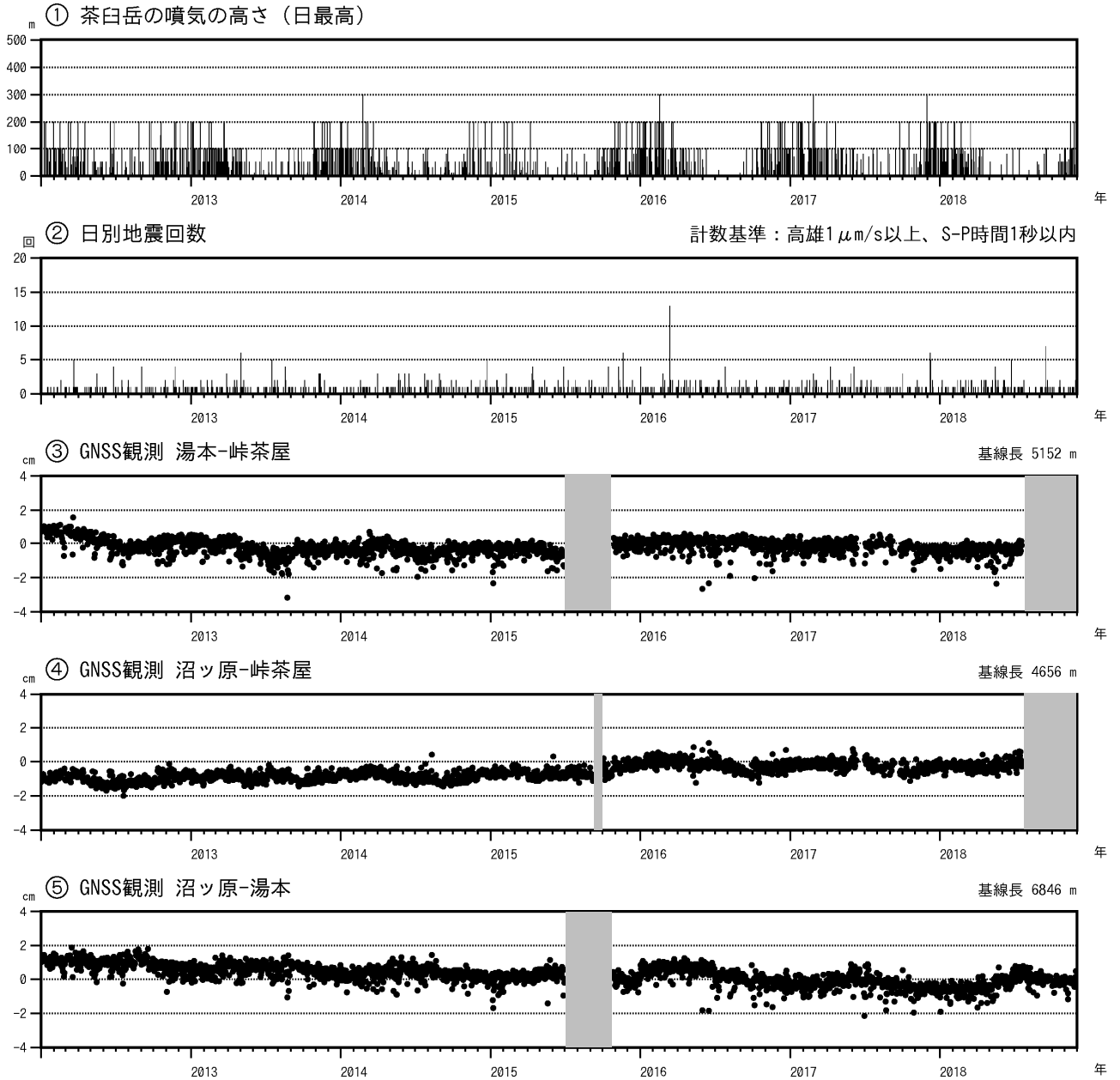


図4 那須岳 火山活動経過図（2012年1月1日～2018年11月30日）

- ① 定時観測（09時・15時）による日最大値
- ④ ⑤ GNSS連続観測による基線長変化
- ⑤の基線長変化にみられる夏季の伸びの傾向は、季節変動と考えられます。
- ③～⑤は図6のGNSS基線③～⑤に対応しています。2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。
- グラフの灰色部分は観測点の障害によるものです。

・噴気活動、地震活動は低調で、GNSS連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められません。

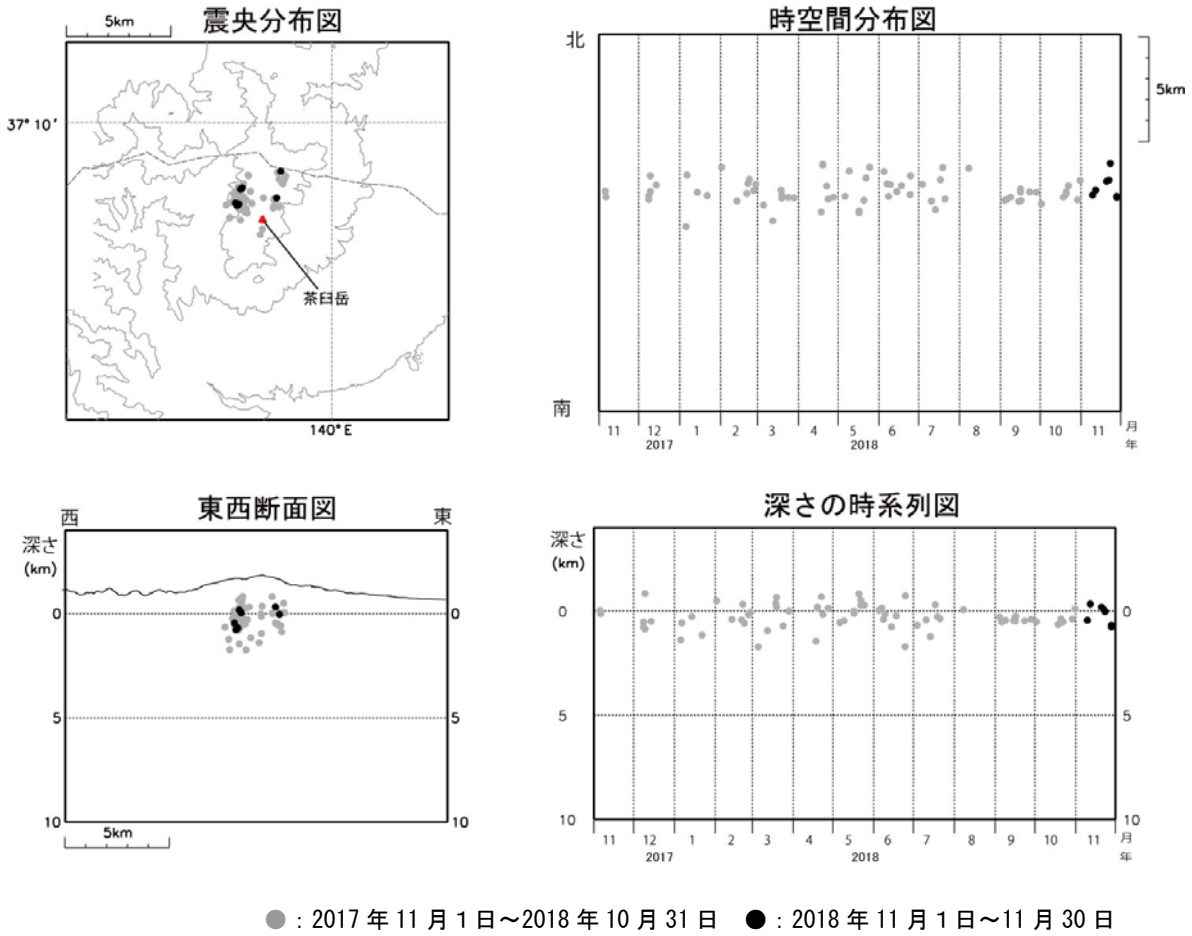
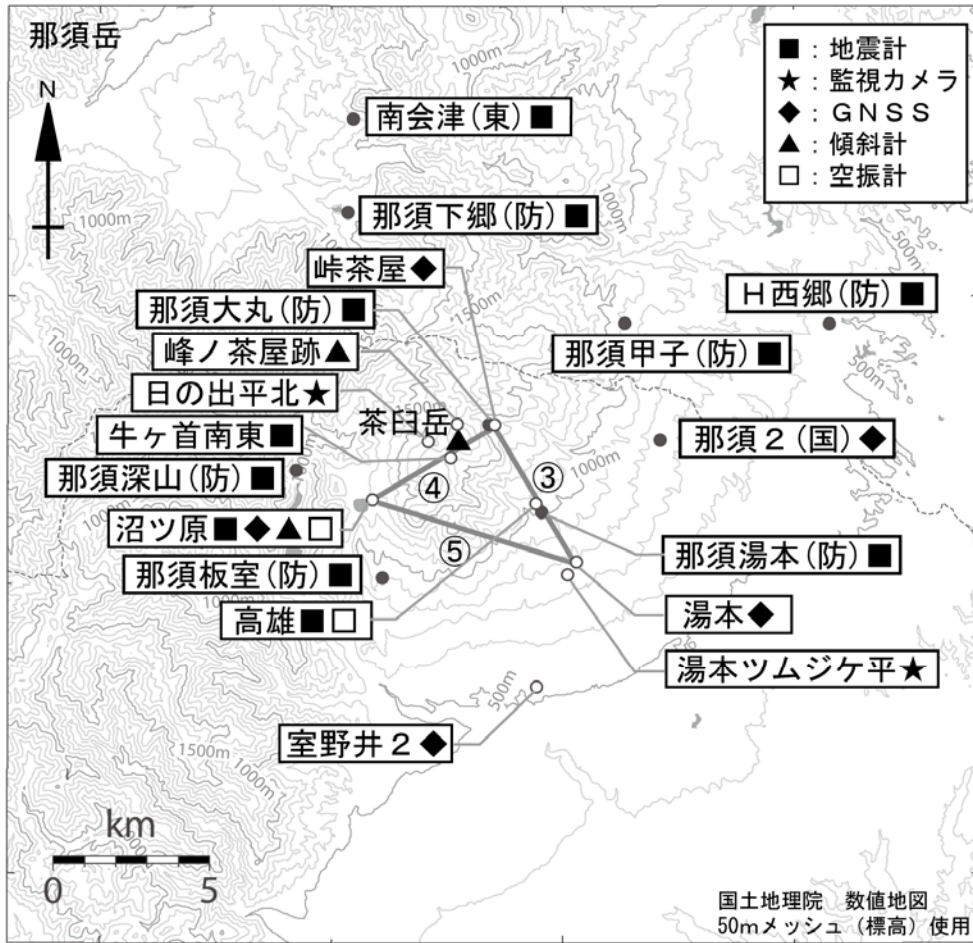


図5 那須岳 震源分布図（2017年11月1日~2018年11月30日）

・ 那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(東) : 東北大学

図 6 那須岳 観測点配置図

GNSS 基線③~⑤は図 4 の③~⑤に対応しています。